

1 以下の目標について、①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価します。

1章 正の数・負の数	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある負の数のよさを認め、正の数と負の数を使うことの意味を理解し、興味・関心を持つ。 素因数分解を理解し、既習の計算方法を基に様々な問題を深く考えることができる。 正の数・負の数の四則についての計算に習熟し、いろいろな計算ができる。 日常生活の中にある正の数・負の数がでてくる場面で、その意味を知り活用できる。 数の集合の関係を四則計算の可能性と関連づけて理解する。
2章 文字の式	<ul style="list-style-type: none"> 数の代表としての文字に興味・関心を持ち、文字を活用しようとする。 具体的な数量を一般的な文字に置き換え文字を用いた計算方法を考えることができる。 文字を使つての計算ができる。 数量の関係や法則を式に表現したり、式の意味を読み取ったりすることができる。
3章 方程式	<ul style="list-style-type: none"> 方程式を利用して、問題が解決できることを知り、その良さを認めることができる。 数量の大小関係を不等式で表すことができる。 等式の性質を利用することにより、移項や方程式の解を手際よく求める方法を見いだすことができる。 具体的な問題の数量関係を方程式で表すことができ、解くことができる。 方程式及び解の意味、方程式を解く手順を理解している。 比の値の意味を知り、簡単な比例式を解くことができる。
4章 変化と対応	<ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の間関係を式やグラフに表すことの良さを認めている。 座標、比例、反比例のグラフを理解し、グラフを活用して、その変化の様子を調べることができる。 比例・反比例の関係を表、式、グラフ表現しその特徴をよみとることができる。 座標の意味や比例、反比例の式やグラフの特徴を理解している。 ともなう変わる2つの変数についてyがxの関数であることの意味を理解する。
5章 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な図形とその作図について興味・関心を持ち、作図に進んで取り組もうとする。 具体的な作図を通して、対称な図形を考察し、作図の方法を考えることができる。 コンパスと定規を用いて、目的に応じた基本的な作図ができる。 基本的な作図の意味と方法、平面図形に関する用語と意味を理解している。 平面図形の3つの移動について知り、その性質を理解する。
6章 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> 空間における点、直線、平面の相互の位置関係に興味・関心を持つ。 空間図形の性質や立体の計量方法を筋道立てて考えることができる。 基本的な図形の計量を数理的な処理で求めることができる。 空間における直線や平面の位置関係や図形の計量の仕方などを理解している。 立体を投影図に表現したり、投影図から立体を読み取ったりすることができる。 円やおうぎ形、立体の表面積や体積、球の表面積や体積を求めることができる。
7章 データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 資料を度数分布表に整理し、相対度数、累積相対度数などの数値を用いて資料全体の傾向を調べることができる。 ヒストグラムや折れ線グラフをつくったり、相対度数を求めたり、2つの資料の分布を比べることができる。 様々な代表値の意味を知り、目的に応じて活用できる。 ことごとくのおこりやすさを数で表したり、起こりやすさの傾向を読み取って判断をしたりすることができる。

2 評価方法

① 下記の資料を総合して評価します。

- 定期考査（中間・期末）
- 小テスト（単元テスト、休み明けテスト）
- 授業のプリント、問題集等の提出物の内容（宿題を含む）
- 授業時の取り組み

② 観点別評価と各評価資料との関係

・観点別評価で、各資料がどの位のウエイトを占めるかを示しています。

◎とても重視する ○重視する △参考にする場合がある

観点	配分	中間考査	期末考査	小テスト	提出物	授業の取り組み
知識・技能	100	◎	◎	◎	○	△
思考・判断・表現	100	◎	◎	◎	○	△
主体的に学習に取り組む態度	100	○	○	△	◎	◎

【達成率】 A=80%以上 B=50%以上 C=50%未満

【評定】 5=90%以上 4=80%以上 3=50%以上 2=20%以上 1=20%未満